

Monthly

Yamagata West Rotary Club 2025-2026  
国際ロータリー第2800地区 山形西ロータリークラブ



# REPORT

4

April 2026

よいことのために  
手を取りあおう



ロータリー月間テーマ  
環境月間

第3082回例会  
「観桜会」

第3083回例会  
「通常例会」

第3084例会  
「ワイヴァンズ応援例会」

2025-2026年度 : 会長\_五十嵐信 / 幹事\_武田秀和  
会報委員会 : 委員長\_佐藤淳 / 副委員長\_芦野茂 / 高橋順弘 / 小野裕史 / 長澤純

## 4月を振り返って



五十嵐信会長

4月を振り返りますと、観桜会に始まり、「米山を考える例会」、そしてワイヴァンズ応援例会と、3つの個性豊かな例会が続きました。観桜会の日程を決めたのは実は昨年5月でした。桜が相手ですから、ある意味では丁半博打のようなものです。しかし今年は見事に見頃と重なり、満開のソメイヨシノに包まれた中で多くのご夫人にもご参加いただき、実に華やかで心温まる一日となりました。

「米山を考える例会」では、大場委員長に事前準備を進めていただき、伊藤義彦会員、飯田喬之会員から、長年関わってこられたからこそその“生の声”をお聞かせいただきました。米山記念奨学会は、2万数千人もの親日的な人材を世界へ送り出してきた、日本のロータリーが誇るべき事業です。そのつながりは奨学金給付に留まらず、学友会をはじめとした緩やかなネットワークとして今も世界に広がっています。そして、カウンセラー制度という「人と人との関係性」を軸にした仕組みがあるからこそ、奨学生とのご縁を単年度で終わらせず、

長期的な「クラブの財産」へと育てていく余地があるのだと思います。

現在、当クラブは米山との距離を少し置いておりますが、将来また新たな機会が訪れたならば、これまで議論してきた「うちらしいルールとシステム」をぜひ実際に形にしてみたいと思っております。親睦を深め、クラブの未来への可能性を模索できた有意義な1か月となりました。会員の皆様に心より感謝申し上げます。

・ 第3082回例会 会長挨拶

・ 第3083回例会 会長挨拶

## 幹事報告



武田秀和幹事

今月のロータリーレート：160円

事務局移転について

4月より歌懸稲荷神社2階に移転します。



## 委員会報告

### 米山委員会 大場委員長



当クラブは1979年より45年以上にわたり米山奨学事業に携わってきた。今回は制度説明ではなく「この事業をどう捉えるか」を問い直すことを目的とした。米山奨学の本質は単なる金銭的支援ではなく、人と人の関係性にある。奨学生は地域社会に入り交流を深める存在であり、「関係性の奨学事業」といえる。一方、卒業後の奨学生の動向把握が課題として挙げられた。カウンセラー経験者の伊藤会員・井田会員からは、奨学生が博士号取得や日本での就職・結婚など日本と深い縁を持ち続けている事例が紹介された。今後は歴代奨学生情報のトレーサーを行い、まず当クラブから実践・発信していく方針を確認した。

### 親睦家族委員会 武田委員長



お花見会報告

4月6日、多数の会員およびご家族をお迎えし満開の桜の下でお花見会を開催した。

大変賑やかな会となり、参加いただいた皆様への感謝が述べられた。

## 米山奨学委員会 担当卓話



「米山奨学事業を考える」 米山委員長 大場委員長 / 発表者：伊藤会員・飯田会員

今年1月に会長から示された考察をもとに、本日の卓話は構成された。今回は制度の説明ではなく、「私たちはこの事業をどう捉えているのか」を問い直すことを目的とした。米山奨学事業は当クラブで7年…いや、45年以上続いている事業である。ある意味「当たり前」になっているが、果たしてその価値を私たちは言語化できているだろうか。

米山奨学は日本最大の民間国際奨学金であることはよく知られている。しかしここで視点を変えてみたい。「これは本当に奨学金事業なのか」。お金を渡すことが目的なのか、それとも別の価値があるのか。国際理解・親善・平和という理念は美しい言葉だが、目には見えない。この事業は「見えないものを扱っている」。それがこの事業の難しさであり、同時に価値でもある。奨学生はクラブ会員であるカウンセラーのもとで交流し、地域社会の中に入っていき存在だ。つまりこの事業の中心にあるのは人と人の関係性であり、お金はそのきっかけに過ぎない。米山奨学事業とは「関係性の奨学事業」なのである。

当クラブは1979年から現在まで多くの奨学生を受け入れてきた。これは活動の記録であると同時に、45年間積み重ねてきた関係の履歴でもある。しかし在学中は見えていた関係も、卒業すると一気に見えなくなる。帰国後にどんな人生を歩んでいるのか、日本との関係は続いているのか、正直なところほとんど把握できていないのが現状だ。

カウンセラー経験者の伊藤会員からは、約48年にわたる関わりの中で大切にしてきたことが語られた。「奨学生は観光や訪問のために来ているのではなく、勉強しに来ているんだ」という意識を持つことが基本であり、宗教や文化的背景への配慮も欠かせない。また担当した奨学生が博士号を取得し、日本人と結婚して日本で教職に就いた事例や、18年以上交流が続いている事例も紹介された。飯田会員からも、奨学生が積極的に地域に関わり、日本文化への理解を深めていった経験が語られた。



今後の取り組みとして、歴代奨学生情報の統一的なトレースと、次回受け入れの際にはカウンセラー経験者の知見を活かした体制づくりが提言された。まずは当クラブから実践し、外部へ発信していきたいと結ばれた。



## 観桜会

令和8年4月6日、春の息吹が満ちる亀松閣で観桜会が華やかに行われました。満開の桜が咲き誇る中、穏やかな陽ざしに包まれた会場では、山形舞子や芸妓の美しい舞が披露され、会員たちはその優雅な世界観に心を奪われました。振る舞われた地酒は香り高く、盃を交わしながら交わされる会話には自然と笑いがこぼれ、和やかなひとときがゆっくりと流れていきました。古き良き伝統と親しみ深い交流が心地よく溶け合い、山形西ロータリークラブの魅力があふれる春の宴となりました。



## ワイヴァンズ応援例会

令和8年4月19日、天童市の山形県総合運動公園にてワイヴァンズ応援例会が開催され、約30名の会員が参加しました。ベルテックス静岡と対戦しました。第1クォーターこそ静岡がリードしましたが、第2クォーターで山形が逆転し点差を広げました。その後も粘る静岡を振り切り、最終的に6点差で山形が逃げ切りました。山形はこの勝利で3連勝となりました。



クラブ会報アーカイブは  
こちらのQRコードからご覧ください



山形西ロータリークラブ事務局

山形市十日町1丁目1-26 歌懸稲荷神社2F

info-ywest@ywrc.jp